

朝日旧友会報



挨拶する中江会長

左から久富さん、堀さん、大野、徳江両副会長、渡辺社長、小倉東京代表

朝日旧友会

東京都中央区築地五―三―二

朝日新聞東京本社内

〒104-8011

TEL 三五四五―〇一三一

FAX 三五四三―三三二八

平成三十年度総会日程

〔日時〕 定時総会 五月十七日(木)

〔場所〕 朝日新聞記念会館(有楽町マリオン11階)
で開催します。

年一回初の総会和やかに

喜寿新会賓を温かい拍手で祝福

東京・朝日旧友会の平成二十九年度定時総会は、五月十八日(木)午後三時半から有楽町マリオン朝日ホールで開かれた。全社的予算節約によって苦渋の決断を迫られ、年一回となった初の総会。会場には午後一時半からの映画「仁義なき戦い」上映前から、心配そうな顔の会員らが姿を見せ、会場のあちこちで「やあ、しばらく、色々あったなあ。元気でよかった。ウンウン」と手を握り、肩を抱き、涙を拭う場面もあった。

総会では中江利忠会長、徳江景英、大野功雄両副会長をはじめ旧友会員二百三十五人、本社側から渡辺雅隆社長、小倉一彦東京代表ら役員幹部三十五人が出席、近況を語り合って盛り上がった。

再生の道 現役と一体となつて 中江会長

報道好評 高い評価企業理念 渡辺社長

望外な喜寿の幸せ・祈る社の健在 堀鐵藏さん

総会は森精一郎事務局長の司会で開会、まず中江会長が「民主・平和の危機に立ち向かえ」「安倍・トランプ(AT) 政治を超え

て」と題して会員によびかけ「経営幹部の交代など再生の道を歩み出して二年半、現役と一体となった私たち旧友会員の一層の協力をこ

こで申し合わせたい」と訴え、共感を呼んだ。次いで森司会者が、この一年に旅立たれた会員五十二人のお名前を拝読、黙祷

を捧げた。先に提案した朝日旧友会の規約改正についても説明、原案通り承認された。奥田信久会計幹事が二十八年度の決算報告をし、今年の新会費七十七人を森司会者が紹介、名前を読み上げ、新会費代表の堀鐵藏さんがあいさつした。選考委員長の久富道生さんが役員選考の経緯を報告、温かい拍手で承認された。

来賓として出席の渡辺社長は「わが社の報道はきわめて好調です。他社が追隨した森友学園のスクープはじめ、ベトナム女兒殺人、海上自衛隊の米艦船防護などいろいろです。『ともに考えともにつくる』の企業理念、課題解決型報道も高い評価を得ています」と報告。信頼を守り抜くと決意を語った。

終わって懇親会、会場はいつ気にも和やかになり、それぞれお好みの飲み物を手に、積もる話の語らひは続いた。時間はあつという間に過ぎ、夜八時前名残を惜しみ、再会を約束して帰路についた。皆々様お元気で、来年また会いましょう。

民主・平和の危機に立ち向かえ A T(安倍・トランプ)政治を超えて

東京旧友会として年二回から一回に変わる、初めての総会を迎えました。朝日新聞が一連の記事取り消しから経営幹部の交代など再生の道を歩み出して、一年半にもなります。いまだに真価を問われつつあるジャーナリズムの再興のために、現役と一体となった私たち旧友会会員の一層の協力を、ここで申し合わせたいと思います。

今年の世界でも日本でも、大きな政治情勢の変化が急速に進んでいます。申すまでもなく、トランプ米大統領の登場と、安倍首相の「一強」政策の進展がもたらした結果であります。

公職歴も政治家歴もないことで初めての米大統領になったトランプ氏は、身内や政治素人の富豪などの支持者で固めた閣僚や大統領顧問陣に引責辞任や内紛まで出て、昨年までの選挙戦や一月の就任演説で「米国第

一」として派手に打ち上げた数々の公約も、実現の歩留まりは低いままです。

即断で実施されたのはTPP（環太平洋経済連携協定）からの離脱ぐらいで、中東諸国などからの入国禁止措置は人種や国籍による差別を禁じた移民法を中心に司法の壁に阻まれて、足踏み状態です。

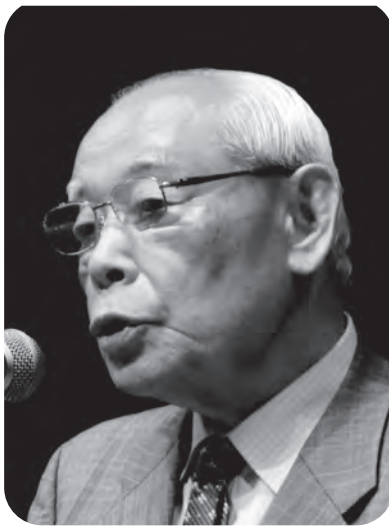
オバマ・ケア（オバマ前大統領の医療保険制度改革）の廃止も、保険加入の義務などを外した代替法案が下院で今月四日に僅差で可決されたものの、上院ではなお難航中。メキシコとの国境に移民制限の壁を建設する大統領令も、予算の計上が認められずたなざらしのままです。

トランプ政権の瀬戸際政策

「世界の警察官」を辞めると公言しておきながら、シリアのアサド政権の軍事拠点を化学兵

器使用への懲罰として巡航ミサイル数十発で攻撃したり、北朝鮮の軍事挑発に対しても、経済

を米国に取り戻した」と自画自賛しました。この演説で相変わらず有力メディアを「フエイク（偽の）ニュース」の巣とこきおろしたトランプ氏に対する世論調査の結果（ワシントン・ポスト紙）では、不支持（五三%）が支持（四二%）を上回る戦後初の大統領ともなっています。



中江旧友会会長あいさつ

制裁に飽き足らず原子力空母を中心とした軍事圧力行使しつつあります。

政権就任百日目の四月二十九日には、ホワイトハウスにメディアを招待するしきたりもボイコットし、選挙戦勝利の原動力となったラストベルト（錆び

ついた五大湖周辺の工業地帯）で演説して「美しく偉大な雇用

国内政治や外交の場に「不動座王」の経験で培ったデイル（取引）の感覚を安全保障の場でも適用して、一触即発の瀬戸

際政策で戦争の引き金に繋がりがかねない危険性が、深刻に憂慮されています。

そのトランプ大統領が世界で一番親密さを示す外国のトップが日本の安倍首相であることは、

大統領就任前後の二人の会談を見ても明らかです。そしてこの二人が更に親密さを増して行けば行くほど、安全保障の面から日本の平和国家としての立場が滅殺されて行く恐れも出て来ました。

その兆しは、一昨年に成立した安全保障関連法に基づいて昨年暮れに決まっていた、平時から自衛隊が米軍の艦船などを守る「武器等防護」の運用方針が今月一日、初めて実施されたことで現実のものとなりました。融和政策の文在寅（ムンジェイン）新韓国大統領にも向けられた北朝鮮の弾道ミサイルの発射や核実験の準備に対抗して、米軍の朝鮮半島周辺の示威行動が続いていますが、こうした米軍との一体化が進み専守防衛の原則も破られる「巻き込まれ」の危険が、はつきり露呈しつつあります。

レジームからの脱却」が着々と進んでいます。

自衛隊明記の九条改憲問題

そして行き着いたところが、憲法記念日の今月三日、安倍首相が来年秋の自民党総裁三選を前提にしながら「日本会議」主導の憲法改正を求める集會に寄せたビデオ・メッセージです。戦争の放棄を定めた九条に自衛隊の存在を明記した条文を追加するなどして、東京五輪・パラリンピックが開かれる二〇二〇年を新しい憲法が施行される年にしたい、という内容は、正に「一強」政治をこり押しして、国民主権、人権尊重、平和主義を誓って七十年の歴史を刻んだ現憲法の基本原理を、覆そうとする姿であります。

ここで、安倍首相とトランプ大統領との政治的な共通点を検証してみますと、まず戦争の本当の悲惨さを十分に認識していない、ということが挙げられます。足の一时的な不具合で徴兵を逃れたため兵役の経験がない大統領と、もともと終戦九年後の生まれで先の戦争を「侵略でなく自衛だった」と主張してA

級戦犯を逃れていた祖父・岸信介首相の薫陶を受けて育った安倍首相の姿が、ここにあります。もう一つの共通点は、歴代の前任者が誰もやらなかった政治的決断を自分なら出来る、という強烈な自信を持って、実行に移そうとしていることです。

しかしトランプ氏は、さきに挙げた異例の公約が軒並み頓挫しているほか、十年間で一兆ドルとぶち上げたインフラ投資や、法人税率を三五%から一挙に一五%に引き下げる方針も財政難から一向に進まず、WTO（世界貿易機関）の自由貿易体制や「パリ協定」による地球温暖化の国際規制などにも背を向けるに至って、大きな国際的批判に曝されました。

今月九日にトランプ大統領が行なったコミーフBI（連邦捜査局）長官の突然の解任には、ロシアの米大統領選へのサイバー攻撃介入にトランプ陣営が関係していた疑惑を隠蔽し捜査を妨害する「ロシア・ゲート」との批判が出て、司法省が十七日、コミー長官の前任者ロバート・マラー氏を独立した特別検察官に任命しました。

議会からは民主党を中心に大統領の弾劾を求める声まで出てトランプ氏は、四十五年前に民主党政権に盗聴器を仕掛けて辞任に追い込まれたウォーターゲート事件のニクソン大統領のように、大きな試練に立たされるに至りました。

一方の安倍氏も財政・金融・構造改革の「三本の矢」を使つた「アベノミクス」でデフレからの脱却と「一億総活躍」など

ザイ通商代表を中心に、米国が対日貿易の赤字を減らすために新たな保護政策を発動することも予想されています。

日本に比べて一人当たりでは五分の一でも総額では二・四倍にもなったGDP（国内総生産）大国の隣の中国が、シルクロード再来の「二帯一路」のプロジェクトに動き出したことにも、注意を払わなければなりません。

グローバルズムで製造業の衰退や大量失業が発生した対症療法、という事実突き当たります。更に今では、制御が難しいビッグ・データやAI（人工知能）が人類の良識まで脅かそうとする時代に入ってきました。

そして資本主義社会の中でグローバルズムが格差の拡大と福祉の切り捨てを招き、民主主義社会の中で自由と平等が両立せずに対立やトレード・オフの関

えるのが問われている」と指摘しています。

安倍氏がもう一つトランプ氏と認識を共有した事実として、提携関係にある朝日新聞とニューヨーク・タイムズに共に「徹底的に叩かれたけど勝った」と意気投合したという、トランプ氏就任前の会談を報じた産経新聞の記事がありました。自衛隊明記の九条改憲表明の一

「だれも置き去りにしない」という国連の「持続可能な開発目標」SDGsのスローガンの共生思想に立ち返り、弱者の権利が十分に回復されるような公正経済と民主社会を再構築するしかないわけですが、そのためにも「アベノミクス」から脱却した二十一世紀の新たな日本の針路を一から作り直す必要があると思います。

朝日新聞も今年から「2030SDGsで変える」というキャンペーンを始めていますが、トランプ流のフェイク・ニュースに対して正確なデータで反論する新設の「ファクト・チェック」の欄や、森友学園、加計学園問題のスクープなどで見せた伝統的な調査報道の一層の充実と共に、ジャーナリズムの中核責任新聞としての本紙の使命を一段と高めることを期待してやみません。

再来年に創刊百四十年を迎える朝日新聞の、確実な経営再建を合わせた真の再生を目指して、共に頑張らしましょう。

疑惑「ロシア・ゲート」米大統領選 民主主義と平和の危機、新聞の決断で

共生と公正社会の再構築を

の新時代を標榜していますが、消費税の引き上げを先送りしながら「物価上昇率二%」をテコにした「好循環」の目標も相変わらず達成難で、アベノミクスの限界や失敗を指摘する識者の声も高まって来ました。

そして日米蜜月の中で進んでいる麻生副総理とペンス副大統領中心の「日米経済対話」でも、議会でこの十一日にやつと承認された対日強硬派のライトハイ

ローマ条約の制定による発足から六十周年を迎えたEU（欧州連合）にも、英国の離脱、フランス大統領選での既成政党の凋落などの形で「トランプ・ショック」が波及しています。

係になる矛盾を、どう克服したらいいか、が最大の課題になって来ました。

これに対して国際政治学者の藤原一・東大教授は「豊かな国が自己利益だけに走ると世界は不安定になり、国家同士が衝突するリスクも高まる。多数決の機械的な横行で政治の多元性が失われ、権力に対するチェックが弱まる。デモクラシーのもとで自由な社会をどのように支

阪神支局の小尻知博記者が国粋主義者の凶弾に倒れて三十年でもある今年、いまこそ「AT（安倍・トランプ）政治」の影響を超えて、民主主義と平和への新たな危機にジャーナリズムの大きな責任と決断で立ち向かって行かねばなりません。

社長あいさつ



「心強い激励に感謝」と渡辺社長

東京旧友会のみなさま、本日は総会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。中江利忠会長をはじめ、東京旧友会のみなさまには、日ごろからさまざまな形で叱咤激励をいただき、心強く思っております。心より感謝を申し上げます。

新体制で経営基盤強化

さて、二〇二〇年までの五カ年を視野に入れた中期経営計画は二年目に入りました。経営基盤の強化をはかる改革の速度を速めるため、四月の取締役会で新たな執行体制を固めました。二〇一四年暮れの新体制移行以後、代表取締役として会社を支えていただいた飯田真也会長は退任し、相談役に就任します。同時期に大阪本社代表に就かれ、

フェスティバルシティ開業までの最終段階を見守っていた

尚雄常務も退任し、顧問に就かれま

す。役員

の責

任をより

先輩の築いた報道機関朝日新聞を
現役の私たちが引き継ぎ次世代に

円と評価された国有地を一億三千万円あまりで購入した問題は、朝日新聞の二月のスクープによって、世間が知るところになりました。ほかのメディアが報道に後れをとるなかで、大阪社会部を中心に次々と特ダネを書き続けました。やがて、他紙も大きく報じざるを得なくなり、テレビのワイドショーも連日のように取り上げるなど、世の中に注目される大ニュースとなっ

材してください。これからも購読続けます」という声をいただきました。女性の読者からは「おかしいと思うことに、日本人はもつと声をあげるべきです。朝日は、ぶれずに、自分のスタンスを保ってください」という励ましをいただきました。

やNHKがトップニュースで追いかける大スクープでした。これらの特ダネは、朝日新聞の取材力と、メディアの責務に忠実な朝日新聞の姿勢をあらためて読者に印象づけたのではないかと思います。

「小さいのち」とともに、子どもをめぐる経済格差を取り上げた「子どもと貧困」の企画には、関西のすぐれた報道を対象にした「坂田記念ジャーナリズム賞」が贈られました。「子どもを社会的に保護できない環境が現在の日本の各所で起きていることを克明に取材した」との評価をいただきました。

また、朝日新聞の記者も参加して、各国指導者らのタックスヘイブン（租税回避地）への関与の実態を暴いた「パナマ文書」の報道は、米国の優れた報道に贈られるピューリッツァー賞を受賞しました。

たのは、ご存じの通りです。事件の力を握る籠池氏が国会で証人喚問されましたが、政権与党は問題の解決に及び腰で、真相はなお闇に包まれています。そんななか、東京と大阪の記者たちが連携して全力で取材を続けています。

「森友学園」をめぐる一連の報道については、たくさんの方の反響が届いています。男性の読者からは「これからもどんどん取

十四日朝に保護者会長の男性逮捕をデジタルで速報した特ダネを含めて他のメディアを圧倒し続けました。逮捕当日の朝日新聞デジタルは、ふだんの日の二倍を超す一七〇〇万ページビュー（PV）を記録しました。

四月末には、朝鮮半島情勢が緊迫するなか、海上自衛隊の艦船が、初めて米艦船の防護を実施することを一面トップで特報しました。これも、ライバル紙

高い評価子どもと貧困企画

ご紹介した数々の特ダネや、読者に寄り添った新たなスタイルの報道によって、読者のみなさんの信頼も順調に回復しています。四月上旬に実施した本社の信頼度調査では、朝日新聞を購読するお客様の本紙への信頼度は五十八％で、二〇一四年九月にこの調査が始まって以降、最高になりました。自分たちの報道に自信を持ち、しかし、決して慢心することなく、これか

らも、朝日新聞への期待にこたえる紙面づくりを続けて参ります。

朝日新聞への期待は、事実を正確にいち早く届ける、ということにはとどまりません。民主主義の基盤である自由な言論を守るという大きな責務も、私たちは担っています。

「これだけの力か問うペン」

小尻知博記者が凶弾に倒れた阪神支局襲撃から、三十年が過ぎました。二週間前の五月三日、私は広島・呉の海を見下ろす高台にある小尻記者のお墓の前で、手を合わせました。この日は憲法施行から七十年という節目の日でもありました。私は、集まった記者のみなさんに、「メディアの仕事は、平和で自由な社会、民主的な社会の実現に貢献することであり、公権力を監視し、隠された不正義を発掘することです。さまざまな形の暴力や不正な圧力に立ち向かい、異なる価値観を受け入れる寛容な社会の実現に貢献することです。ペンの力で『これだけの力か』と世の中に問い続け、ともに考えていくことだ」と思いま

す」と話しました。一昨年に亡くなった小尻記者の母みよ子さんの句「憲法記念日 ペンを折られし 息子の忌」を紹介して、ジャーナリズムの責務を全うすることをあらためて墓前に誓ったことをお伝えしました。

同じ日に、安倍晋三首相は、憲法記念日に合わせる形で「二〇二〇年までに憲法を改正する」と表明しました。憲法九条に自衛隊の存在を明記する形での改正を目指す、と改憲の具体的な内容にも踏み込みました。

私たちは、五月三日の一面に掲載した社説で、「国民主権、人権尊重、平和主義という現憲法の基本原理が役割を果たしたからこそ、日本は平和と繁栄を達成できた。その歴史に対する自負を失うべきではない」と主張しました。

憲法をめぐるでも、私たちは「多様な言論を尊重する」という立場を堅持し、様々な主張を紹介し、読者、そして国民に判断の材料を提供する役割を果たしてゆく方針です。ただし、現時点では、改憲に反対する人々が数多く、国民の約七割は憲法改正をめぐる議論は深まってい

ないと考えている、という事実があります。安全保障について議論を重ねることは重要ですが、

これまでの議論をすべて棚上げして、北朝鮮やテロの危機をあることで既成事実を積み上げていくようなやり方を許すわけにはいきません。各紙の調査をみても、安倍首相の言うように「機は熟した」とはとても思えません。国会での数の力に頼って、議論の深まりを待たずに、改憲を急ぐようなやり方を容認することはできません。

朝日新聞は、「共謀罪」の成立を急ぐ安倍政権の動きや国会での論議も、厳しくチェックしてきました。憲法改正の動きにも、これまで以上に目を光らせて、読者の期待にこたえる新聞でありたいと思います。私は、阪神支局の小尻記者の遺影の前で、「ジャーナリズムのために、たたかていく」と宣言しました。この場で、先輩のみなさんにも、同じ約束をいたします。ジャーナリズムを担う新聞社として立ち続けていくため、経営基盤の強化も急がねばなりません。新聞事業が本社の大きな幹であることに変わりはありません

銀座創業の地にビル

不動産業の分野では、大阪・中之島でフェスティバルタワー・ウエストが竣工し、四月十七日には、二〇〇メートルのツインタワーを中心とする「フェスティバルシティ」が街開きしました。六月には、上層階にラグジュアリーホテルの「コンラッド大阪」が開業し、

来年には香雪美術館も開館する予定です。また、東京での創業の地といえる銀座・並木通りに誕生するビルも、この秋に完成します。このビルにも、ラグジュアリーホテル「ハイアット・セントリック」が年明けにオープンする予定です。新領域では、ベンチャー企業への投資をスピーディーに行うためのコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)「メディアアラバベンチャーズ」がこの春設立されました。再成長に向けて慎重に吟味しつつ、M&Aにも本格的に取り組んでいます。

とはいえ、私たちは、不動産会社になるわけでも、投資銀行になるわけでもありません。しっかりと経営基盤を手に入れ、新聞購読者の急減という

厳しい経営環境のなかで、報道を本業とする企業として必ず勝ち残ります。

八十八人の新入社員を迎えた四月の入社式で、私は、スマホやSNSはもちろん、パソコンもデジカメもなかった三十年前の私の駆け出し時代の話をしました。情報技術の劇的な変化に対応してきた朝日新聞社の諸先輩の歩みに思いをはせてもらいたうで、今後数十年の想像すら難しい変革の時代を、いままです以上の工夫と努力で突き進んでほしいとお願いしました。

れる情報の真偽をたしかめ、足を使つて、隠された事実を掘り起こす、という私たちの仕事の大切さは、ますます高まっていると思います。

本日、この場にお集まりのみなさんを含む朝日新聞の先輩たちが築いてきた報道機関としての強さを、現役の私たちが引き継ぎ、次の世代にきちんと継承してまいります。

五月三日、阪神襲撃事件から三十年を迎えた阪神支局には、これまでで最も多い、八百人を超すみなさんが訪れ、小尻記者の冥福を祈ったそうです。私たちと同じように、事件を風化させまいという思いを抱く読者のみなさんが、朝日新聞を支えてくださっています。そのことに常に思いをいたし、よい新聞づくりを続けていきます。最後になりましたが、みなさま方とご家族お一人一人のご健勝を心からお祈り申し上げます。私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

●●●喜寿記念講演●●●

先輩・同僚・後輩に恵まれた職場 異動の結果は定年後に……

新会賓代表 堀 鐵藏さん



豊富な体験語る堀さん

よき働き場所だった

今日は旧友会で喜寿の祝いをしていただけということに誠にありがとうございます。ついでに事務局からお前が朝日で何をしてきたのか、などを含めて挨拶を、という話がありました。七十数年生きてきて、その半分近くを過ごした朝日新聞で何をしてきたのか。こんな機会にその一端をお話するのも、すぐれた先輩、同僚、後輩に恵まれた働き場所を与えてくださったことへのお礼になるのかも、と

思い、お受けすることにしました。

目標「社会部記者」日本を見る

私が高校・大学時代を過ごした一九六〇年前後は安保改定を中心に社会情勢、世相が激しく動いていました。自分が進みたい道と、何かしなくてはという気持ちの狭間に立つて、焦燥感に駆られていました。

その頃、小田実さんの『何でも見てやろう』が出版され、時

代の合言葉のように感じました。いつか社会を見る目標を低くして、人間が生きる現場を大切に、日本をみてやろうという気持ちが強くなり、「社会部記者」が現実の目標になってきました。

朝日に入って初任地は大分でした。その後、久留米、門司、小倉、博多と東京本社に来るまで七年半の間に六か所異動しました。一か所平均一年三か月、一番短いのは久留米の七か月でした。当時、部長に「こんな異

ん。

七〇年三月三十一日には小倉社会部の当直室で東京からの電話でたたき起こされました。

「羽田から福岡空港に向かっている日航機が富士山上空でハイジャックされた。福岡空港で一旦着陸させるはずなので手配を」という話でした。例の「よど号」事件です。福岡総局の泊まりを起し、部長、デスクに手配し、ヘリコプターで福岡空港に駆けつけました。しかしすでに空港は閉鎖され、朝鮮半島

擁するPL学園の優勝を見届けたこと、その間に起こった日航ジャンボ機の御巣鷹山墜落事故では乗客名簿を担当して一睡もせずに甲子園に駆けつけると、追いかけるように生存者情報が入り、それを事業局の人の提案でスコアボード下の電光掲示板に「御巣鷹山に生存者」のニュースを流した時のアルプススタンドの大歓声。西部では雲仙普賢岳の取材の指揮を執り、大火砕流で一人も犠牲者を出さなかったことなど記憶に残ること

朝日の記者たちがファクトを求めて取材に走りました。我々司法記者クラブは八三年十月十一日の朝刊一面トップで「田中、有罪の公算」の見出しで翌日の丸紅ルート判決公判の予測記事を出稿しました。実はこの原稿は整理部に渡すときの「仮見出し」は「実刑の公算」でした。しかし、様々な議論を経て新聞の見出しは「実刑」が「有罪」になりました。まだ自民党を中心とする「田中無罪論」は、首相の職務権限、嘱託尋問調書の証拠能力など法律論にも難問を抱えていることもあり、結構根強いものがありました。取材先の秘匿の絡み

不可思議・今日ここに生きていること

病魔・手術・検査 合計二十時間

動歴は自分にとってプラスですかマイナスですか」と問いかけると「それは人による。定年になつたときに分かる」と言われました。妙に納得したような気になりましたが、プラスだったかマイナスだったか、未だに自分では結論は出ていません。

しかし、サツ回りばかりの西部本社時代が面白くなかったかといえ、そんなことはありません

に飛び立つた「よど号」をヘリコプターから見送っただけでした。

さて、その後、編集局としては東京首都部、社会部、大阪社会部デスク、西部社会部長、東京社会部長、名古屋局長と四本社を渡り歩きました。

大阪では、出ると負けだった元高校球児としては念願の甲子園デスクをやり、桑田・清原を

とはいろいろありました。しかし、自分にとって忘れられないのはやはり、ロッキード事件・裁判でした。

取材に走り回った「現場主義」

社会部は現場主義です。何事も現場でつかんだ事実、ファクトを積み重ねて結論を導くことが基本です。ロッキード事件でも多くの、社会部だけではない

もあり、我々は強引な主張はしませんでしたが、判決は量刑を含め取材通りの結果でした。裁判の現場とはどういうことでしょうか。まずは当然、法廷です。次はそれを取り巻く様々な状況、人々です。裁判官、書記官、検察官、検察事務官、弁護団、さらには被告たちとその会社、団体も含まれます。そこから導き出される結論の背景に、

事件の発覚から丸紅ルートの田中一審判決まで、七年八か月に及ぶ朝日新聞の総力を挙げた取材がありました。

私もその間、ずっと、警視庁クラブ、裁判所クラブに席を置き、多くの人たちの助けを得て、裁判を取り巻く人々に、ネットワークを作る努力をしていました。田中被告とは直接話はずきませんでした。東タイの政治記者から田中の秘書になった早坂茂三氏。彼とは何度も激しい、それこそ殴り合い寸前のやり取りを経て、「公判はお互いの修羅場。そこに信頼がおける敵がいることは必要だ」と理解し合い、その後夜討ち、朝駆けが出るようになるようになりました。その後、早坂氏の了解と政治部の友達の応援を得て、元旦の田中邸に、判決までに三回入ることが出来ました。

「よっしや」の応接間？見る

最初は七八年。通されたところは冒頭陳述で五億円の請託を告げられて、田中が「よっしやよっしや」と快諾したとされる応接間のようなものでした。奥にむかつて左に各社の政治

部記者、右には、今ではほとんど亡くなりましたが、田中派の政治家が座っていました。一番奥の母屋に近い正面にはその時、竹下登氏が座っていました。山下元利氏が遅れてくると「罰に歌え」と笑いながらも一喝、山下氏が「青春時代」をアカペラで歌う一幕もありました。その後、二階堂進氏が入ってくると竹下氏はさっと立って隣の席に移り、二階堂氏に正面を譲りました。当時の田中派の席次が垣間見えた瞬間でした。

八二年は親類付き合いの鈴木政権だったせいか、温かい賑わいがありました。庭に建てられたプレハブの会議場で渡辺美智雄氏が机の上上がり、身振り手振りよろしく「フレイフレー田中」とやったり、田中六助氏の肩を抱いて現れた田中被告が「同じ田中でもこれからは君の時代だ」と言って周囲を笑わせていました。

判決のあった八三年は、大声は影を潜めていました。元気のいい声は田中だけでした。やはり田中邸も法廷に次ぐ現場でした。そこを自分の目で見ることが、ロッキード報道にお

いて私には必要だったのです。

田中弁護団では中で最も理論家と言われる弁護士の知己を得て、公判の度に田中派の戦略戦術について、禅問答まがいといえ話が出来るようになりました。

また、丸紅の伊藤宏被告とは、場所が明かせませんが、毎月一度位の割で秘かに会っていました。公判当初は、田中の復権を恐れて検事調書を「検事の作文」と言っていた伊藤氏が、私

がありました。

それは、判決期日が決まった後、早坂秘書、伊藤被告の二人から「当日は昼飯を用意するように裁判所から言われた」という話を聞いたことでした。判決はガリ版刷りで五百ページを超え約三十四万字ありましたが、要旨の朗読は午前中に終わることになっていました。昼飯が必要なのは、実刑判決で、保釈が認められるまで時間がかかり、裁判所内の拘留房に留め置かれ

るかに違いありません。ロッキード事件・裁判はさまざまな捜査上の隘路があり、今でも批判が無い訳ではありません。ただ、それ以上に、小佐野児玉警士夫という、戦後の混乱期に跳梁した怪物や異色の政治家だった田中被告たちが、この事件によっていずれも刑事訴追を受け、これを契機に表舞台から姿を消したという意味で、戦

民主主義の生んだ妖怪・背後霊注意 公判取材に「信頼おける敵必要」

後の大きな句読点だったのではないかと思っています。

ただ、私個人に關していえば、今日も生きてここに立っていることが真に不可思議な気がします。二十代の北九州市の勤務時代に兆候が見えた喘息以外、健康に不安を感じたことはありませんでした。

降ってわいた病氣との戦い

ところが、テレビ朝日を経由して名古屋テレビ放送に転じた

五年一月に約八時間の手術で脾臓の半分を切除しました。その秋の人間ドックで今度は前立腺がんが見つかりました。初期・微小だが悪性ということ、やはり翌年一月に五時間の手術で全摘出しました。十一年春のドックでは左足を微かにひきずっているといわれ、初めて脳ドックをした結果、右側頭部に約百CCの血だまり、慢性硬膜下血腫が見つかり直ちに手術。急性だったらとつくに脳梗塞か脳溢血で突然死していたかも知れないそうです。この十年間、合計二十時間を超えて手術室に入っており、検査まで含めると三十時間近い勘定になります。

二〇〇四年（六十三歳）以降、降ってわいたような病氣に見舞われることになりました。同年秋に人間ドックを受けたところ、膝頭部に結構な大きさのポリープが見つかりました。これは大変珍しいことらしいのですが、膝臓ポリープは癌になりやすいということで、名古屋大学医学部の内科、外科が対策を検討してくれましたが、結局翌

朝日新聞がきちつとキャンペーンをしている共謀罪への動きや、私は民主主義が生んだ妖怪、あるいは背後霊のようだと、言っているのですが、最近度々取り上げているポビュリズムの兆しが日本にも見え隠れする。今、朝日新聞がジャーナリズムの中核に健在であることを願いながら、来年もまた、皆さんと元気で会えることを楽しみにしております。

平成29年 定時総会出席者

会員出席者

(あ)

荒木 忠直 青山 勇

赤堀 昭雄 秋庭 武美

秋山 康男 朝野きらか

安達 真樹 阿部 征夫

綾部 陸雄 荒田 茂夫

栗田伊三雄 栗田 房穂

安藤 保雄

(い)

飯田 秀雄 飯沼 和夫

飯野 幹雄 池辺 史生

池田 正勝 石井哲次郎

石岡 統明 石川喜代司

猪爪 純一 板垣 誠

市川 健 伊藤 壯

伊藤 三郎 伊藤 裕造

稲木 泰生 稲永 金仁

岩松 幸正

(う)

植木 栄 内山 眞

上田 久行 宇野 勝己

大野 功雄 大坪 正徳

(お)

奥田 信久 岡部 匡克

(か)

片岡 久明 勝浦 章

香月 浩之 加藤 次一

金井 進 金子 晃二

金子 良三 金成 英雄

加納 隆 加納 安實

神谷 光男 亀本 泰夫

川島 正英 川瀬 智長

川戸 弘次 川原 基尚

川辺 久信

菊池 武 岸 栄輔

清時 竹彦

草鹿 恵 轡田 隆史

工藤 吐二 国正 武重

久保 優 久保田 敏

窪田 喜三 久保田 泉

窪田 康孝 熊澤 誠

黒河 晃

高口 信行 桑折 勇一

児玉 浩憲 後藤 襄

(き)

坂井 清保 澤上 勇市

坂巻 武 坂本 昇司

相良 保彦 笹井 輝雄

佐々木博志 佐藤 清治

佐藤 博 沢野 正明

志賀 浩 芝 實

柴 昭二 柴田 眞樹

柴田 鉄治 清水 勝

数度 富夫 菅野 清志

菅原 道久 杉谷 隆司

鈴木 益民 須田 徹

須藤 典政

高久 陽男 高橋 純一

田中右太生 竹内 實昭

谷 久光 高垣 徹蔵

高山 修一 高山 智

託摩 俊一 竹市 義弘

竹村 文雄 田中 健一

(く)

中江 利忠 名倉 正昌

内藤 頼誼 中島 清成

中島 富次 中野 嘉

中野義次正

西井 哲郎 蟻川 真夫

二宮 操 二本柳典彦

沼上 勇

根津 静男

信澤 秀男 野村 彰男

野本 登

畠山 弘道 長谷川 晨

長谷川大介 長谷部守永

羽鳥健一郎 初山 有恒

浜田 隆 羽原 清雅

林 直樹 原 孝治

原田 利次 早野 透

久富 道生 菱沼 保幸

檜山 隆 平野 新介

比留間悦雄 広瀬 道貞

(こ)

三浦 義晴 三露 久男

宮坂 秀一 宮崎 仁一

宮田 善光

宮田 善光

村田 吉男 村田 欽吾

村野 坦 村山 朝夫

森精一郎 諸 寿子

茂貫 正記 森 治郎

森下 昇 森田 恭生

森本 英之

山越 英一 山田 正子

山田 弘 山下 靖典

山村 行志 山本久二男

山本 祥之

横田 稲光 吉田 弘文

若目田倫子 渡辺 晋

渡辺 登 渡邊 宏

(こ)

山野辺富士雄

村岡美佐男 山野井 忠

洞口 和夫 堀 鐵藏

中島 達夫 中村 雅俊

中村 満夫 平賀 義男

齊藤 幹雄 志村嘉一郎

粕谷日出夫 込山 光雄

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

喜寿出席者

寄付

関連会社

海上商事(株)様 一万円

▼会員

岡部 康世様 一万円

中江 利忠様 五千元

宇野 勝己様 五千元

奥田 信久様 五千元

粕谷 日出男様 五千元

込山 光雄様 五千元

佐藤 博様 五千元

鈴木和子様(妻) 五千元

若目田倫子様 五千元

長谷部 守永様 四千元

ご寄付ありがとうございました。

役員・幹事新執行部決まる

中江会長 徳江・大野両副会長留任

新旧幹事拍手で承認 新任幹事は三人

定時総会の重要議題となつてゐる役員・幹事の選考経緯について、久富道生選考委員会座長から説明があり、満場の拍手で承認されました。

新役員は次の通り

▽会長 中江 利忠

▽副会長 徳江 景英
同 大野 功雄

▽事務局長 森 精一郎
副事務局長 牧野 詔正

▽幹事 編集 高橋 純(新)
澤上 勇市

高久 陽男
谷 久光
洞口 和夫

業務 大坪 正徳
奥田 信久

竹内 實昭
田中 右太生

工務

坂井 清保
荒木 忠直

名倉 正昌

島山 弘道
吉川 宏

出版

若目田倫子
諸 寿子
岡部 匡克(新)

連合

山越 英一
藤巻 隆
山田 正子(新)

ご苦労さまでした

戸引 和夫(編集)
(故) 中島 泰(出版)
(故) 奥川 恭子(連合)

ご苦労様 選考委員の皆さまです

東京旧友会の役員・幹事を選考する大切なお役目を担った皆さまです。

◇編集(六)

秋山 康男
香月 浩之(新)

柴田 鉄治

長谷部 守永(新)

平野 新介

村野 坦(新)

◇工務(五)

金子 晃二(新)
込山 光雄

柴 昭二

須藤 典政(新)

田谷 宣夫

◇出版(三)

岡村 徹

君島 志郎

初山 有恒

◇業務(五)

小林 三千夫

都丸 司

中澤 信男

長谷川 晨

久富 道生(座長)

◇連合(三)

大野 出穂

下山 勝

古内 啓毅

ご苦労さまでした

天野 重夫

加納 安實

牧野雄一郎

(故) 加藤 嘉照

利根澤 正弘

平成28年度 決算報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	4,025,514		
終身会費 (11名)	392,000		
年度会費 (30名)	120,000		
総会会費 (1回181名)	905,000	総会費	1,607,233
总会寄付金 (本社ほか)	3,232,000	会報費 (年2回発行)	1,235,422
会報収入	292,500	供花費	287,470
協力会社寄付金 (20社)	1,205,000	会務費	2,326,634
その他寄付金	33,500	通信・事務用品・雑費	287,128
雑収入	340		
		次年度繰越金	4,461,967
計	10,205,854	計	10,205,854

平成二十八年度の決算を奥田会計幹事が報告、満場の拍手で承認された。決算報告は次の通り。

決算報告を承認



中江さんを囲んで工務局の人達



(左) 草鹿恵さん、早野透さん、中江会長、加納隆さん、志村嘉一郎さん



熱気ムンムン 話は尽きない懇親会会場



喜寿の中島達夫さんを中心に工務局の人達



(左) 小林基美男さん、神谷光男さん、菅原道久さん

喜寿の山野辺富士雄さんを囲む元印刷の仲間たち



やあ、しばらく、元気でよかった。ウンウン……



(左) 岡田和巳さん、前原寛成さん



(左) 高垣徹蔵さん、西井哲郎さん、岡田肇さん



人生なんてあっという間だね、ウンウン……



和やかに総会後の一服



総会はいいね、みんなと会えて……



(左) 原田利次さん、朝野きらかさん、佐々木博志さん



(左) 森治郎さん、内山眞さん、笹井輝雄さん



(左) 金成英雄さん、志村嘉一郎さん、堀井淳夫さん、蜷川真夫さん、安藤保雄さん



(左) 加納安實さん、中江会長、堀越作治さん、大森和夫さん



(左) 山田弘さん、数度富夫さん、沼上勇さん、松功さん



喜寿の込山光雄さんを囲む工務局の人達



今年も活躍、幹事団